

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：テレピン油（化学用）

製品番号(SDS NO)：D006400-1

供給者情報詳細

供給者：国産化学株式会社

住所：東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署：品質保証部

電話番号：045-328-1715

FAX：045-328-1716

e-mail address：cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先：国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分 3

健康に対する有害性

急性毒性(経口)：区分 2

急性毒性(吸入)：区分 3

皮膚腐食性及び刺激性：区分 2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 1

皮膚感作性：区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 1(腎臓)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分 1(腎臓、呼吸器)

吸引力呼吸器有害性：区分 1

(注)記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

飲み込むと生命に危険

吸入すると有毒(気体、蒸気、粉じん及びミスト)

皮膚刺激

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

臓器の障害

呼吸器への刺激のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策

熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。ー禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
保護手袋を着用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋及び保護面を着用すること。
保護眼鏡/保護面を着用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
直ちに医師に連絡すること。
医師に連絡すること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

物理的及び化学的危険性

燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

化学物質

化学的特定名：テレピン油

（テレピン油は、松の一種から得られる粘性物質を蒸留することにより得られる、異性体のテルペン類混合物である。）

（組成は、生成方法や樹齢、材料となる針葉樹の種類や場所により異なる。）

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
テレピン油	－	8006-64-2	7-987	－

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

テレピン油

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

テレピン油

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入：錯乱、咳、頭痛、咽頭痛、息切れ。

皮膚：発赤、痛み。

眼：かすみ眼、痛み、発赤。

経口摂取：灼熱感、腹痛、吐き気、嘔吐、錯乱、痙攣、下痢、意識喪失。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

適切な換気を確保する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

30℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

（取扱者のばく露防止）

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

（火災・爆発の防止）

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

局所排気、全体換気

排気/換気設備を設ける。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

日本産衛学会(1991) 50ppm; 280mg/m³

ACGIH(2001) TWA: 20ppm (肺炎)

注釈(症状、摂取経路など)

皮膚感作性

ばく露防止

設備対策

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学用品用ゴーグルを着用する。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：液体

色：無色

臭い：特有臭

pH：知見なし

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：149 through 180°C

融点/凝固点：-50 through -60°C

引火点：(テレピン油)(C.C.) 30 through 46°C

自然発火温度：220 through 255°C

爆発特性：引火又は爆発範囲

下限：0.8 vol %

上限：6 vol %

蒸気圧：0.25 through 0.67 kPa (20 C)

相対蒸気密度(空気=1)：4.6 through 4.8

20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1)：1.01

比重/密度：0.855～0.870g/cm³

溶解度

水に対する溶解度：不溶

溶媒に対する溶解度：エタノール、エーテル、クロロホルム、二硫化炭素に可溶。

10. 安定性及び反応性

反応性

テレピン油は、松の一種から得られる粘性物質を蒸留することにより得られる、異性体のテルペン類混合物である。

組成は、生成方法や樹齢、材料となる針葉樹の種類や場所により異なる。

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

空気や光の影響下で徐々に分解し、毒性や刺激性がさらに強い酸化物を生じる。

危険有害反応可能性

燃焼すると、有毒なフューム（一酸化炭素など）を生成する。

酸化剤、ハロゲン、可燃性物質、無機酸と激しく反応する。

プラスチック、ゴムを侵す。

避けるべき条件

光、熱、混触危険物質との接触。

混触危険物質

酸、酸化性物質、ハロゲン、可燃性物質

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性（経口）

〔日本公表根拠データ〕

ラットLD50値：5760mg/kg (DFGOT (Vol.17, 2002))によれば区分外と判断されるが、人での死亡例を基に算出された致死量 (ACGIH (7th, 2001)) は約210～1260mg/kgに相当し、区分2から3にまたがることから、厳しい方をとって、区分2とした。

急性毒性（経皮）

〔日本公表根拠データ〕

ウサギへの経皮投与では5010mg/kgでも死亡例がなかったことから、区分外とした。

急性毒性（吸入）

〔日本公表根拠データ〕

ラットLC50値（4時間暴露）：13700mg/m³（換算値：2450ppm）に基づき、ミストを含まない蒸気と判断され、区分3とした。

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

〔日本公表根拠データ〕

ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994) Vol. II, 1267-1292、DFGOT (Vol.17, 2002) の人の皮膚に対して刺激性があるとの記述、ならびにRTECS (Access on Aug 2005) のウサギの皮膚に強度の刺激性があるとの記述から、区分2とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

〔日本公表根拠データ〕

PATTY (4th, 1994) のヒトの眼に対し強い刺激性および腐食性があるとの記述により、重篤な眼損傷性があると判断し、区分1とした。

感作性

呼吸器感作性

〔日本公表根拠データ〕

DFGOT (Vol.14, 2000) のヒトで呼吸器感作性およびアレルギー性鼻炎を示唆する症例報告が挙げられているが報告例が他にないことからデータ不足のため分類できない。

皮膚感作性

〔日本公表根拠データ〕

産衛学会勧告 (1993)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT (Vol.14, 2000)、PATTY (4th, 1994) のヒトでの職業暴露における疫学的調査では皮膚感作性があるとの記述、ならびにDFGOT (vol.14 2000) のモルモットでのMaximization法による試験で陽性であるとの記述から、区分1とした。

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[日本公表根拠データ]

ACGIHではA4に分類している（ACGIH 7th, 2001）ことから、区分外とした。

ACGIH-A4(2001)：ヒト発がん性因子として分類できない

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

[区分1]

[日本公表根拠データ]

産衛学会勧告（1993）、ACGIH（7th, 2001）、PATTY（4th, 1994）のヒトでの急性暴露により腎障害の発現および気道粘膜刺激性があるとの記述から、区分1（腎臓）および区分3（気道刺激性）とした。

[区分3（気道刺激性）]

[日本公表根拠データ]

[区分1]データ参照。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

[区分1]

[日本公表根拠データ]

産衛学会勧告（1993）、DFGOT vol.17（2002）、PATTY（4th, 1994）の長期職業暴露者には慢性気管支炎などの呼吸器障害、腎障害が認められたとの記述により、区分1（腎臓、呼吸器）とした。

吸引性呼吸器有害性

[区分1]

[日本公表根拠データ]

ACGIH（7th, 2001）、PATTY（4th, 1994）、DFGOT（Vol.17, 2002）、ICSC（J）（2002）には誤嚥により気道に吸引すると化学性肺炎を起こすことがあるとの記述により、区分1とした。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性データなし

水溶解度

溶けない（ICSC, 2002）

残留性・分解性データなし

生体蓄積性データなし

土壌中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号：1299

テレピン油（化学用）,国産化学株式会社,D006400-1,2016/09/21

品名（国連輸送名）：

テレピン

国連分類（輸送における危険有害性クラス）：3

容器等級：

指針番号：128

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(X類)

テレピン油

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機則 第3種有機溶剤等

テレピン油

名称表示危険/有害物(令18条)

テレピン油

別表第1 危険物（第1条、第6条、第15条関係）

危険物・引火性の物 (30°C ≤ 引火点 < 65°C)

名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9)

テレピン油

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第4類 引火性液体第2石油類非水溶性液体 危険等級 III

化審法に該当しない。

大気汚染防止法

揮発性有機化合物(VOC)

テレピン油

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

適用法規情報

海洋汚染防止法：個品運送P(施行規則第30条の2の3、国土交通省告示)

海洋汚染防止法：有害液体物質(X類物質)(施行令別表第1)

特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)：廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)

港則法：その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

道路法：車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)

輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」

輸出貿易管理令別表第1の16の項

輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2015 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2015 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実用性を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。